

令和元年度 第1回 倫理委員会審議

申請者	外科医長	黨 和夫
受付番号	19-01	
課題名	第105回 日本消化器病学会総会での電子ポスター発表：「当院における悪性腫瘍による胃排出障害に対する胃空腸バイパス手術症例の検討」	
研究の概要	悪性腫瘍による胃排出障害(gastric outlet obstruction: GOO)は、食事摂取が不能になるだけでなく胃管留置を余儀なくされQOLを著しく低下させる病態である。GOOに対する胃空腸バイパス手術の有用性を検討した。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	呼吸器内科医師	小宮 一利
受付番号	19-02	
課題名	RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究	
研究の概要	本研究は、Lung Cancer Genomic Screening Project for Individualized Medicine in Japan(LC-SCRUM-Japan)へ参加した全国の研究協力施設から提出された臨床検体の遺伝子解析の結果に基づいて、肺癌の原因遺伝子として新たに報告されたRET融合遺伝子陽性の肺癌を特定し、その臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにすることを目的とする。更に、同時に測定する複数の体細胞遺伝子変化に関しても、遺伝子変化を有する肺癌を特定し、その臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにすることを目的とする。国立がん研究センター東病院を代表とする他施設共同研究として実施する。	
判定	承認	国立研究開発法人国立がん研究センター研究倫理審査委員会承認課題。計画どおり承認とする。

申請者	消化器内科医師	山口 太輔
受付番号	19-03	
課題名	消化管内視鏡鎮静後の看護師によるMPADSSを用いた帰宅基準の安全性と有効評価 (Safety and Efficacy of Nurse-Administered Discharge Criteria using Modified Post Anaesthetic Discharge Scoring System(MPADSS)in Sedation of Gastrointestinal Endoscopy)	
研究の概要	<p>鎮静剤を使用した消化管内視鏡検査は近年増加傾向にあり、2013年に消化器内視鏡学会より刊行された「内視鏡診療における鎮静に関するガイドライン」に準じて行われているものの、その周術期管理、特に検査後の管理に対して明確な基準は定められていない。</p> <p>内視鏡検査後の帰宅基準の指標として、MPADSS(Modified Post-Anesthesia Discharge Scoring System)があり、下部消化管内視鏡検査後の帰宅基準にも有用とされている。これまでは明確な検査後の帰宅基準がなく、覚醒レベルやバイタルサインが安定していれば担当医の指示により帰宅可能と判断しており、帰宅時の客観的な評価が難しいことが問題であった。</p> <p>今回鎮静剤を使用した消化管内視鏡検査後の患者において、看護師によるMPADSSを用いた帰宅基準の安全性と有効性をこれまでの診療と比較検討する。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。